

正札直段に而買取候者は稀に有之、左候逆、正札カ下直に賣渡候而者、正札附置候詮無御座、一體
雜商之義者際物と唱魚市場同様之商に御座候間可相成義に御座候は、正札に無之、多分之掛
直不申、正路に賣買仕候様嚴敷申付、商爲仕可申哉、此段奉伺候、以上、

本石町名主孫兵衛 尾張町壹丁目元地、同佐兵衛 同一丁目新地、同伊左衛門 同文藏
麴町五丁目、同與兵衛、

右二月十八日小倉朝五郎殿江出ス

例年二月廿一日カ雜市商仕候處、市中諸色、正札相用商可仕旨被仰渡御座候處、右雜之義者際物
故、正札に而者景氣も沈候に付、正札相用不申、相當之直段に賣買仕度旨申之、右に付、是迄正札用
不申商爲致候類、御聞濟被爲在候義、御尋に御座候處、差當右に類し候義者無御座候得共、都而市
商之義は、正札相用候而者、日々景氣に而、直段高下も有之候に付、雜市之義も、市中に而市商内之
振合を以御聞濟被下置候は、其筋商人共商内規縮不相成辨利可相成哉奉存候、此段奉申上候
以上、

二月十八日

諸色掛 名主頭

右者南御年番所江 差出候處、上ゲ置候様、仁杉八右衛門殿被仰渡、二月十九日、伺之通致候様被仰
渡候事、

〔人倫訓蒙圖彙〕五 雜師 紙ひいな、裝束ひいなあり、紙ひいなは紙をもて頭を造る、又ほうこのか
しら、これをつくりて、ひいなやにうる也、雜屋これをもて品々仕立あきなふ也、

〔ひな人形の故實〕享保年中迄は、京都に細工人二百二十軒御座候處、當時永嘉は相減候、

〔江戸買物獨案内〕萬木彫細工

御雜師

本町二丁目木戸際

原舟月